

trivia ■ 皮膚科のトリビア ■ 134

本欄は、浅井皮膚科クリニックのホームページに連載されている「皮膚科のトリビア」を紹介させていただくものです。学会・研究会などで聞きししたことをその都度まとめ、連載されています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

温泉が原因の ashy dermatosis

第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成27年11月21日)

40歳代女性。前胸部から始まり、額、体幹に広がった褐色斑。病理組織は表細胞の個細胞壊死と苔癬型反応で、ashy dermatosisと診断。金属パッチテストで重クロム酸カリウム(++)、硫酸ニッケル(+)。温泉水プールに週1～2回入る習慣があり、温泉水のDLSTが陽性だった。温泉中の金属が原因の可能性がある。

「ashy dermatosisは原因が見つからないことが多い。薬剤以外では金属のアレルギーを疑うことがあるが、たとえ陽性でも、なぜ病変が体幹に広く生じるのかはわからなかった。風呂やプールの水に含まれる微量金属が原因かもしれないというのは、新しい発想で、興味深かった」。

デュロキシセチンが痒疹に 有効だった

第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会から(平成27年11月22日)

70歳代女性。難治で経過の長い蕁麻疹様紅斑と膨疹様丘疹。抗ヒスタミン薬内服とステロイド外用で改善しない。好酸球数 $3,000/\mu\text{l}$ 、IgE 4,700 IU/ml、TARC 36,000 pg/mlと高値で、激しい痒みを伴う。慢性疼痛に適応のあるデュロキシセチン(20 mg/

日)を投与したところ、3週間で痒みが改善。膨疹様紅斑、痒疹丘疹も消褪。検査異常も正常化した。デュロキシセチンはセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬(SNRI)に属する薬剤で、脊髄中の下行性疼痛抑制系を賦活化するため、痒みに対しても効果を発揮する可能性がある。

「多形慢性痒疹あるいはその類症と考える症例で、治療に窮することが少なくない。これまでも、ピロリ除菌(マクロライド系抗菌薬)や、レセルピンがよかったなど、いくつか報告があるが、もちろん全例に有効とはいかない。デュロキシセチンがどの程度有効なのか、今後の検証を待ちたいと思う」。

マクロとミクロの差を 検証する方法

第6回横浜臨床皮膚腫瘍研究会から(平成27年11月26日)

外陰部Paget病の話。病変の辺縁が肉眼、あるいはダーモスコピーでも不明確なのは周知の通り。皮膚悪性腫瘍ガイドラインでは、通常は肉眼的な辺縁の1 cm外側、辺縁が不明瞭な場合は3 cm外側を切除マージンとすると推奨されている。切除した検体はそのまま病理に提出するのではなく、マクロで病変と思われる辺縁にメスを浅く入れておくとよい。病理組織では表皮に付けたキズがどこにあるかを確認することで、マクロとミクロの差を検証できる。

「なるほどと思った。外陰部Paget病には、

トリビア (trivia) = 3を意味するtriと十道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」, そこから転じて「瑣末なこと」となり, 今では雑学的知識, 豆知識, などを意味する言葉として定着している。

浅井俊弥

Asai, Toshiya

浅井皮膚科クリニック

(〒240-0013 横浜市保土ヶ谷区帷子町1-14)

ホームページアドレス:

<http://www.asai-hifuka.com>

術前にステロイド軟膏を外用し, 局所の炎症をとることで, 病変の辺縁が明瞭になるとのこと。ミノサイクリン内服であぶり出せるというのも本当らしい。勉強になった」。

創傷がmoistすぎる場合のドレッシング材

第31回日臨皮三ブロック合同学術集会から (平成27年11月30日)

創傷治癒においてはmoist wound healingの概念が推奨され, 創を湿潤環境に保つことが必要だが, ここでいう湿潤環境とは適切にコントロールされた状態であり, 過剰な滲出液は創底の浮腫や創周囲の浸軟の原因となり, 感染の温床や上皮化の妨げになる。静脈瘤性下腿潰瘍など, 創の面積や深さに比して滲出液が多い創傷では, ポリウレタンフォーム (ハイドロサイトなど), ハイドロファイバー (アクアセルなど), アルギン酸塩 (カルトスタットなど), ソフトシリコン/ポリウレタンフォーム (メビレックスポーターII など) のドレッシング材を用いると良い。

「潰瘍自体は小さいのに, 滲出液が多い下腿の病変にはたびたび遭遇する。褥瘡では周囲がふやけたときにポビドンヨードを使ってきたが, 下腿潰瘍では痛がることが多く使いづらい。もっとドレッシング材を積極的に使っていく必要があるようだ」。

带状疱疹後神経痛における鎮痛補助薬の選択基準

第31回日臨皮三ブロック合同学術集会から (平成27年11月30日)

経験にもとづくペイン専門医の, ザックリとした治療の提案。带状疱疹後神経痛で, 焼けるような, うずくような, 締め付けるような痛みには, トラマドールないし三環系抗うつ薬, 電気が走るようなザーッと来るような痛みにはプレガバリンがよい。なお, トラマドール製剤の内容量はトラムセットだと1錠中37.5 mgなので, 眠気, 吐き気, 便秘の副作用が出現することが多いため, 最初はトラマールOD錠 (25 mg) を用いるとよい。徐放性剤で1日1回のワントラムは100 mgで, トラマール錠4錠分に当たる。

「“火”を想像させる痛みはトラマドール, “電気”を想像させる痛みがプレガバリンとすることで, わかりやすい。さっそく明日から使えそうだ」。

